

# 中間評価シート

## 中間評価（表紙）

### 宗像市 歴史的風致維持向上計画（平成30年3月26日認定） 中間評価（平成30年度～令和4年度）

■ 統括シート（様式1）	1
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史的建造物の保存・活用	2
II 歴史的建造物を取り巻く環境の保全・再生	3
III 歴史や伝統を反映した活動の支援・継承	4
IV 歴史文化資産の調査研究と普及啓発	5
V 歴史文化資産を活かした地域活性化や観光振興	6
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 市民意識の向上	7
ii 歴史文化資産の保存・活用の推進	8
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 史跡宗像神社整備事業	9
B 歴史的風致等景観整備事業	10
C 道路美装化事業	11
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 宗像大社ゆかりの歴史的風致	12
2 宗像の浦々にみる歴史的風致	13
3 八所宮の御神幸祭にみる歴史的風致	14
4 唐津街道赤間宿にみる歴史的風致	15
■ 庁内体制シート（様式6）	16
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	17
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	18

市町村名	宗像市	評価対象年度	H30～R4
<b>① 歴史的風致</b>			
	歴史的風致	対応する方針	
1	宗像大社ゆかりの歴史的風致	I, II, III, IV, V	
2	宗像の浦々にみる歴史的風致	I, II, III, IV, V	
3	八所宮の御神幸祭にみる歴史的風致	I, II, III, IV, V	
4	唐津街道赤間宿にみる歴史的風致	I, II, III, IV, V	
<b>② 歴史的風致の維持向上に関する方針</b>			
	方針		
I	歴史的建造物の保存・活用		
II	歴史的建造物を取り巻く環境の保全・再生		
III	歴史や伝統を反映した活動の支援・継承		
IV	歴史文化資産の調査研究と普及啓発		
V	歴史文化資産を活かした地域活性化や観光振興		
<b>③ 歴史まちづくりの波及効果</b>			
	効果		
i	市民意識の向上		
ii	歴史文化資産の保存・活用の推進		
<b>④ 代表的な事業</b>			
	取り組み	事業の種別	
A	史跡宗像神社整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	歴史的風致等景観整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
C	道路美装化事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	宗像市	評価対象年度	H30～R4
方針	I 歴史的建造物の保存・活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】所有者等の理解や調査が行われることなく、その価値が認識されないまま取り壊される建造物が存在する。また、歴史的建造物の保存には多額の修理・修繕費用を要する。歴史的建造物の多くは木造で、老朽化など将来的な保存管理に懸念があり、自然災害への脆弱性や放火・盗難等に対する課題がある。

【方針】所有者だけでなく、地域で支え守り活かしていく仕組みや環境を整え、実態を把握するための調査や法令等に基づく指定等、保存・活用方法を検討する。指定文化財は、現状調査により、修理・整備の優先順位を付け適切な方法で保全を図る。また、耐震・耐火性の向上や防火設備の整備、防犯設備の設置等の対策を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	史跡宗像神社整備事業	歴史的建造物の保存修理(11棟)	あり	H30～
2	歴史的風致形成建造物等整備事業	歴史的建造物の保存修理(2件)	あり	H30～
3	文化財の修理事業、防災に関する事業	防災設備、保守点検経費の支援(2件)	あり	H30～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

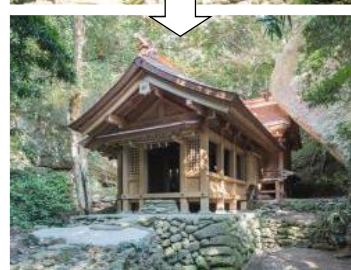
【史跡宗像神社境内整備事業】

宗像大社の歴史的建造物のうち、沖津宮社殿と辺津宮摂末社の保存修理を実施した。これらの建造物は、神社の信仰上、重要な役割を果たしており、保存修理により適切に歴史的資源が保存された。



【歴史的風致建造物等整備事業】

市指定文化財である八所宮の石垣及び土塀の保存修理に際し、所有者に対し費用の一部を支援した。これにより、歴史的風致の構成要素である八所宮の歴史的建造物の保存を図ることができた。



【文化財保護事業】

災害等による滅失を予防するため、国、県、市の文化財指定を受けている歴史的建造物（宗像大社辺津宮本殿・拝殿、鎮国寺本堂）の防災設備の設置や防災設備保守点検事業を実施した。

宗像大社沖津宮社殿の保存修理

④ 自己評価

指定文化財等の歴史的建造物の保存修理や防災設備の設置、防災保守点検事業の実施により、適切な方法で歴史的建造物の保存を図ることができた。

一方、歴史的建造物に係る支援は、指定文化財の保存修理等に限定されていることから、未指定の歴史的建造物に係る支援のあり方について検討する必要がある。



⑤ 今後の対応

歴史的建造物の保存・活用を図るため、引き続き関係機関や専門家と連携しながら、指定文化財等の保存修理、防災設備の設置、防災保守点検事業を実施する。

また、未指定の歴史的建造物については、実態を把握するための調査を引き続き実施し、その結果を踏まえ、法令等に基づく保存措置や歴史的風致形成建造物の指定候補等を検討し、歴史的建造物の保存・活用に係る支援の拡充を図る。



八所宮の石垣と土塀の保存修理

市町村名	宗像市	評価対象年度	H30～R4
方針	Ⅱ 歴史的建造物を取り巻く環境の保全・再生	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】世界遺産の緩衝地帯以外は歴史的建造物を取り巻く環境を手厚く保護する方法がなく、保全・再生にどう取り組んでいくかという課題がある。また、歴史的建造物の周辺と調和しない屋外広告物や電柱電線類、道路の附属施設等が景観を阻害し、歴史的風致の魅力を減退させている。

【方針】良好な景観の形成に向け、景観計画や屋外広告物条例に基づき、景観重点区域等の指定をし、規制や誘導を行う。また、各種まちづくり施策との連携を図りながら、建造物等の外観修景や除却、集約化、道路の美装化や無電柱化等の景観上の改善を図る事業を推進し、規制と事業の両面から歴史的建造物とその周辺地域との一体的な景観形成に取り組む。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	歴史的風致等景観整備事業	辺津宮周辺の無電中化(170m)	あり	H30～
2	道路美装化事業	道路安全施設の更新(40基)	あり	H30～
3	景観条例等に基づく規制・誘導	事前協議、届出実績(277件) 屋外広告物許可申請件数(408件)	あり	H30～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【歴史的風致等景観整備事業】

宗像大社周辺の景観と調和しない電柱電線類を除去するため、無電柱化事業を実施することで、歴史的建造物とその周辺地域との一体的な景観を形成することができた。

実施にあたっては、「官民連携無電柱化支援事業宗像大社地区協議会」を組織し、電線事業者が実施する工事に対し費用を支援した。

【道路美装化事業】

道路美装化やガードレール等の更新に際しては、市民全体で共有できる景観まちづくりに関する方針(景観まちづくりプラン)を踏まえ、景観アドバイザーに意見を求めながら事業を実施することで、周辺環境との調和を図るなど、良好な景観の形成を図ることができた。

【景観条例等に基づく規制・誘導】

建造物や工作物の新築および改築等に対し、景観条例や屋外広告物条例に基づき事前協議や届出を求めることによって、地域の特性に応じた適切な助言、指導を行うことができ、建造物等の修景が促進され、歴史的建造物とその周辺地域との一体的な景観を形成するための誘導を進めることができた。



宗像大社辺津宮周辺の無電柱化

④ 自己評価

法令に基づく規制・誘導と、無電柱化等の事業の両面から取り組むことで、歴史的建造物とその周辺地域の特性に応じた景観の形成を進めることができた。

一方、景観形成一般区域における周辺環境と調和しない屋外広告物、集落内道路における老朽した道路附属施設など景観阻害要因は、引き続き存在していることから、その対応が必要である。



景観に配慮したガードレールの更新

⑤ 今後の対応

引き続き、ソフト・ハード事業の両面から、景観阻害要因の除去や眺望景観の保全など、歴史的建造物を取り巻く環境の保全・再生に取り組む。

市町村名	宗像市	評価対象年度	H30～R4
方針	Ⅲ 歴史や伝統を反映した活動の支援・継承	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】伝統行事等の多くは、高齢化による担い手の減少をはじめ、経済事情やコミュニティの希薄化等の要因によって、その保全・継承・伝承が困難になりつつあることが課題である。また、伝統行事の継承に取り組む各種団体等の活動を活性化する、効果的な支援の仕組みが十分でない。

【方針】地域住民や専門家等と連携しながら、活動の継承のために必要な実態調査や記録作成についての支援を行い、学校教育の場や継承に取り組む組織と連携協力しながら、担い手となる後継者の発掘と育成に努める。また、地域固有の希少性や継承の必要性等を内外に周知し、祭礼等に使用する道具の修理等の必要な支援を行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	無形民俗文化財等調査支援等事業	新修市史編さん事業に伴う調査研究、普及啓発（調査：97回、HP掲載24回）	あり	H30～
2	歴史文化資産継承支援事業	1件に補助 聞き取り調査5回	あり	H30～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【無形民俗文化財等調査支援等事業】

市史編さん事業に関し、専門家や市民の協力を得て祭礼や暮らしなどの実態調査を実施し、HPや講演会などを通じ情報発信することで、市民が伝統行事などに興味を持ち、理解を深めることができた。

【歴史文化資産継承支援事業】

歴史や伝統を反映した活動を継承するため、無形民俗文化財の保持団体などに課題等の聞き取りや意見交換を行い、今後の支援の在り方について検討を実施した。その結果、薫文化の一つである地域の注連縄づくりの担い手や後継者育成が課題となっていたため、地域の技術者を招いた体験学習会を実施することで、伝統を反映した人々の活動継承を図ることができた。

また、みあれ祭の陸上神幸で必要とされる道具（神輿台車）の整備支援や、コロナ禍において宗像大社秋季大祭のパブリックビューイングやライブ配信を行うことにより、祭礼等の担い手の継承に対する意欲の向上を図ることができた。



市史編さん事業に伴う講演会

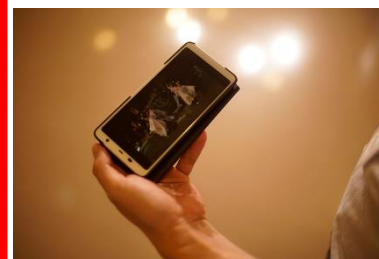


パブリックビューイング

④ 自己評価

歴史や伝統を反映した活動の継承・支援により、改めて、ふるさとへの誇りや愛着が生まれ、受け継がれてきた祭礼等の伝統行事を守っていかなければならないという機運が醸成されつつある。

一方、活動の継承に係る支援は実施しているものの、一部団体に限定されていることから、各団体にヒアリングを行うなどし、地域固有の希少性や継承の必要性や支援制度について周知する必要がある。



ライブ配信

⑤ 今後の対応

祭礼等の伝統行事を誇りに思い、守っていかなければならないという機運を更に高めるため、引き続き実態調査を推進し、継承の必要性や継承に対する支援制度を周知する。

また、継承が困難になりつつある活動団体と課題を共有し、個々の実態に合った助言・指導や支援を実施し、学校教育の場や継承に取り組む活動団体と連携しながら後継者の育成に努める。

市町村名	宗像市	評価対象年度	H30～R4
方針	IV 歴史文化資産の調査研究と普及啓発	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等の生活に身近な歴史文化資産は、学術的な調査や検証が不十分な面があり、その価値や魅力を多くの市民と共有できていない。市民自らがその価値や魅力に気づき、誇りと愛着を育みながら、積極的かつ主体的にまちづくりに活かしていくことが困難となっていることが課題である。

【方針】調査や検証が不十分な歴史文化資産の歴史的史実の把握、価値付けに努める。また、市民や来訪者に宗像の歴史文化をわかりやすく伝え、より深く理解してもらうため、その価値や魅力について、ストーリー性を持たせる等、効果的な情報発信を行い、各種情報を入手できる場や機会を創出する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	歴史文化基本構想策定事業	文化財保存活用地域計画作成・認定	あり	H30～
2	歴史文化資産がゆかり拠点整備事業	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会の開催(2回/年) 「海の道むなかた館」の機能強化	あり	H30～
3	歴史文化資産普及啓発事業	世界遺産学習の副読本作成・配布(3,300冊)(令和3年度からタブレット閲覧) 歴史まちづくりカード作成・配布(2種類)	あり	H30～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【歴史文化基本構想策定事業】

文化財の把握や現地調査等の学術的な調査を実施し、保存・活用の方針や取り組みを総合的に定める「文化財保存活用地域計画」を作成した。作成においては、市民アンケートや文化財所有者、市民活動団体と意見交換するなどし、歴史文化資産の価値や魅力を市民と共有できた。



市民の意見を反映した地域計画作成

【歴史文化資産ガイダンス拠点整備事業】

海の道むなかた館において、世界遺産に関する解説パネル、沖ノ島祭祀遺跡のレプリカ、VR映像を用いた体験型の展示等を追加し、世界遺産ガイダンス拠点施設としての機能強化を図った。これによって、世界遺産の価値や魅力をこれまで以上に分かりやすく伝えることができた。



沖ノ島祭祀遺跡出土遺物のレプリカ

【歴史文化資産普及啓発事業】

歴史文化資産の魅力や価値について学ぶ機会を創出するため、全市立小中学校で、副読本を活用した世界遺産学習を実施した。行政と連携した出前講座や、海の道むなかた館を活用するなど、各学年の理解度に応じたカリキュラムを導入することで、世界遺産をはじめとした歴史文化資源の価値についてより理解を深めることが可能となった。



海の道むなかた館を活用した世界遺産学習

④ 自己評価

学術調査成果等の情報発信や、学校教育において、継続的に学ぶ機会を創出することにより、歴史文化資産の価値や魅力を市民と共有し、理解を深めることができた。

また、市民や歴史的建造物の所有者などに宗像の歴史文化をわかりやすく伝え、より深く理解してもらうために、調査研究の成果をより一層活用するための手法について検討する必要がある。

⑤ 今後の対応

市民が地域の歴史文化に関心を持ち、主体的にまちづくりに活かしていくため、学術的な調査や検証を継続する。

調査研究の成果を歴史文化資産の普及啓発により一層活かしていくため、情報発信など活用するための手法を検討・拡充する。

また、世界遺産ガイダンス拠点の施設については、海の道むなかた館を基軸に事業を展開しているが、新たな施設の整備については、財源などの課題を踏まえ、県・福津市・宗像市とで構成される保存活用推進協議会において、引き続き協議・検討を行う。

市町村名	宗像市	評価対象年度	H30～R4
方針	V 歴史文化資産を活かした地域活性化や観光振興	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】「点」として存在している歴史文化資産がネットワークでつながっておらず、相互に関連した保存・活用ができていない。また、地域づくりの基盤となる地域リーダーの確保と人材育成が課題である。  
 【方針】テーマ性やストーリー性を持たせ「面」としてわかりやすく体験し感じられる魅力ある観光地とするため、ネットワーク化した「観光周遊ルート」の形成に取り組み、回遊性を向上させるための受入環境整備や充実を図る。また、歴史文化を活かしたまちづくり活動団体への情報提供や支援を行い、地域が主体となって取り組みを推進する仕組みを構築するとともに、文化財の所有者や関係団体との連携を促進し、より一層の活動の推進に取り組む。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	観光拠点施設整備事業	駐車場等拡張：10,000㎡(大型車16台、普通車約200台) 周辺施設整備：芝生広場(約2,000㎡)、多目的スペース(約2,200㎡)、トイレ、宗像観光おみやげ館	あり	H30～
2	観光受入環境整備事業	観光ガイド登録者数・養成講座の開催(108人、31回) 観光パンフレット、アプリ多言語化(1,000部、1アプリ) 観光パンフレットリニューアル(5,000部、web掲載) 観光案内板更新(3地点)	あり	H30～
3	地域活性化支援事業	赤間宿における新規出店支援(5件) 北部沿道商業地新規出店補助金創設	あり	H30～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【観光拠点施設整備事業】

地域活性化や観光振興のために、宗像市観光物産館と駐車場などの施設を整備し、観光客の受入環境の充実を図った。

また、地域事業者との連携により、宗像大社等の歴史文化資産を活用したイベントや旅行ツアー、世界遺産登録5周年の記念展示会などを企画・実施した。

【観光受入環境整備事業】

増加する観光客へ対応するため、市民活動団体と行政が連携して歴史観光ガイドを養成した。養成講座ではガイド自身が宗像市の歴史文化資産を広く学習することで、地域づくりを担う人材の育成にもつながった。

また、利便性を高め、多様なニーズに対応するために、観光案内板や観光パンフレットの多言語化及びウェブサイトへの掲載などを実施した。

【地域活性化支援事業】

赤間宿通りにおいて、赤間宿通り活性化協議会と連携し、建物所有者と出店希望者のマッチング、新規出店に対する費用の支援を行うことで、新たな人材の流入や、地域主体のイベントが開催されるなど、地域活性化につながった。



宗像観光おみやげ館



駐車場拡張

④ 自己評価

地域や関係団体との連携により歴史文化資産を活かした地域活性化や観光振興の各種取組を推進することで、観光客の利便性向上や地域活性化が図られ、地域の賑わいの創出にもつながった。

一方、市内の回遊性を向上させるための取り組みや、各拠点の賑わいを創出するための取り組みは実施しているものの、「面」としてのネットワーク化した観光周遊ルートの形成には至っていない。



赤間宿観光案内板整備

⑤ 今後の対応

テーマ性やストーリー性を持たせるなどし、「面」として魅力ある観光地とするため、文化財の所有者や関係団体との連携を図り、ネットワーク化した「観光周遊ルート」の形成を促進する。また、活動団体への情報提供や支援を行い、地域が主体となって取り組みを推進する仕組みの構築を目指す。

市町村名	宗像市	評価対象年度	H30～R4
効果	i 市民意識の向上		

① 効果の概要

「自分の住んでいる地域がとても好き」と答えた子どもたちの割合が増加した。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	宗像市第2次総合計画	あり	H27～R6
2	宗像市文化財保存活用地域計画	あり	R3～R12
3	世界遺産のあるまちづくり計画	あり	R3～R6

③ 効果発現の経緯と成果

●法令に基づく規制・誘導

景観条例や屋外広告物条例に基づき、建築、開発等の行為や屋外広告物の設置に対し、規制・誘導を図ることにより、良好な景観が保全され、まちの魅力の向上へとつながった。

●宗像大社およびその周辺の一体的な整備

世界遺産の構成資産および市のシンボルの一つである宗像大社において、建造物の保存修理や社叢整備を行った。また、周辺において、無電柱化や道路美装化事業等を実施した。

その結果、歴史的建造物とその周辺地域との一体的な景観の形成が進み、歴史や文化を感じられる景観が形成され、多くの市民が訪れた。

●学校教育における世界遺産学習の実施

世界遺産学習のための副読本を作成・活用し、全市立小中学校の児童生徒に世界遺産学習を実施した。世界遺産学習を通して、歴史文化資産を身近に感じる機会を設けたことにより、小中学生の歴史や文化財に対する理解が深まり、地域に対する愛着と誇りを育むことができた。（令和5年3月25日現在の児童生徒数：8,348人）

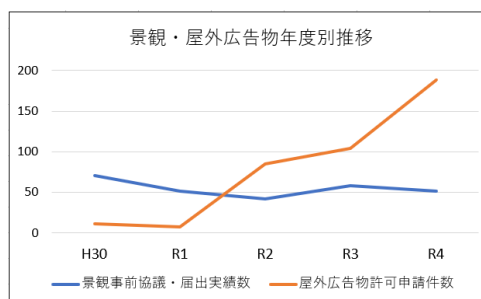
●海の道むなかた館における普及啓発活動

特別展の開催や世界遺産ガイダンス施設としての展示強化等により歴史文化資産の価値や魅力の情報発信を行った。また、海の道むなかた館の施設を利用し、世界遺産学習を実施した。

その結果、多くの来館者が訪れ、市民や子ども達が歴史や文化財への理解を深める場としての役割を果たした。

●地域に対して愛着を持つ子どもたちの増加

全市立小中学生を対象にした学習意識調査によると「自分の住んでいる地域がとても好き」と答えた子どもは、平成29年は62%だったが、令和4年は70%に上昇した。



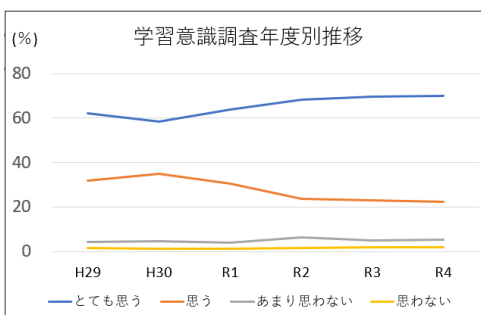
宗像大社参拝者数

年度	参拝者数
H29	913,513
H30	923,418
R1	931,648
R2	616,427
R3	657,748
R4	768,535

海の道むなかた館来場者数

年度	来場者
H29	143,972
H30	155,135
R1	139,497
R2	72,541
R3	83,707
R4	112,041

※宗像大社参拝者数及び海の道むなかた館来場者数の平成29年度は7月からの統計



④ 自己評価

歴史や文化財への理解・関心を深める機会の提供や、法令に基づく規制・誘導、歴史的建造物の整備事業等の各種取組が相乗効果をもたらし、子ども達の地域に対する愛着を向上させた。

⑤ 今後の対応

引き続き、歴史文化資産への理解や関心を深める機会の提供や法令に基づく規制・誘導、歴史的建造物の整備事業等の各種取組を推進することにより、市民をはじめ関係者の地域に対する愛着や誇りを育み、郷土意識の向上を図る。



市町村名	宗像市	評価対象年度	H30～R4
効果	ii 歴史文化資産の保存・活用の推進		

① 効果の概要

関係部局や関連団体などとの連携・協力により、歴史文化資産の保存・活用を推進した。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	宗像市第2次総合計画	あり	H27～R6
2	宗像市文化財保存活用地域計画	あり	R3～R12
3	宗像市産業振興計画	あり	R3～R7

③ 効果発現の経緯と成果

●文化財の総合調査の推進

市史編さん事業や文化財保存活用地域計画の作成過程において、専門家や市民の協力を得て文化財の総合調査(112件)を実施することで、これまで未把握であったり、検証が不十分だった歴史文化資産の実態把握が促進された。



歴史文化資源の把握のための総合調査

●文化財保存活用地域計画の作成

市内全域の指定・未指定を含めた文化財の保存と活用を推進するため、地域一体となって取り組むことを前提とした基本方針や取り組みを定めることで、計画的、継続的に文化財の保存と活用に取り組む体制の整備が図られた。



文化財保存活用地域計画

●市史の刊行

市民協働による事業の実施により、5巻の市史を刊行し、調査研究成果が情報発信されたことにより、市民が宗像市の歴史や文化について理解を深める機会が創出された。

●歴史観光ボランティアの養成

市民活動団体と行政が連携してボランティアガイドを養成することで、活動が活発化し観光客の受入態勢が整備・拡充された。

●赤間宿の空き家の活用

地域住民等で組織される協議会と協働し、5軒の空き店舗の改修と新たな利用がなされ、歴史的建造物が保存・活用された。



歴史的建造物を活かした空き店舗の活用

④ 自己評価



関係部局との連携により、計画的・継続的に事業を実施できている。また、関連団体などと市民協働により事業に取り組むことで、地域一体となって歴史文化資産を保存・活用する機運が醸成されつつある。

⑤ 今後の対応

引き続き、関係部局や関連団体と連携しながら、歴史文化資産の保存と活用を推進する。また、情報共有や協働での事業の実施を目的に、文化財などの所有者や関係団体で構成される任意団体を組織化し、連携・協力体制の強化を図る。

市町村名	宗像市	評価対象年度	H30～R4
取り組み	A 史跡宗像神社整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>●「史跡宗像神社境内」整備基本計画の策定                  史跡「宗像神社境内」を適切に保存管理するため、基本理念や基本方針を定め、令和2年度以降の整備の内容や事業について記載した整備基本計画を作成した。</p> <p>●建造物の保存修理                  沖津宮社殿1棟および辺津宮摂末社22棟のうち10棟の保存修理を実施した。実施にあたっては、学識経験者や関係機関と修理方法等を検討し、建造物の価値を担保するため、指定文化財の保存修理に準じる方法で工事を実施した。また、事業に対し国・県・市が費用を支援した。</p> <p>●社叢の樹木整理                  境内の静謐な景観を保全するため、辺津宮社叢の樹木整理を実施し、令和元年度からこれまでに、約500本の樹木の不要枝等を剪定した。</p>		 <p>宗像大社辺津宮摂末社の保存修理</p>  <p>宗像大社辺津宮社叢の整備</p>	
<p>② 自己評価</p> <p>所有者が社殿等の歴史的建造物の保存修理事業を実施し、費用の一部を支援することで、大切に受け継がれてきた地域の財産を確実に保存することができた。                  境内を取り囲む社叢の樹木を適切に管理することで、良好な景観の構成要素を維持・保全することができたが、面積が広大であり、維持管理に係る人員や財源の不足が課題となっている。</p>			
外部有識者名	八女市歴史文化交流館長 伊崎 俊秋（宗像市文化財保護審議会委員）		
外部評価実施日	令和5年3月2日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>史跡の本質的価値を構成する要素となっている宗像大社辺津宮摂末社等の歴史的建造物の保存修理に際しては、その価値を損なうことなく、指定文化財建造物に準じる形で保存修理が実施されており、評価すべきものと言える。また、境内の大部分を占める社叢の整備は、信仰の場にふさわしい空間づくりに大きく寄与しており、人員や維持管理費などの課題があるとは思いますが、継続的に実施してほしい。</p> <p>老朽化に伴う辺津宮祈願殿の建替え等、史跡内の諸施設の更新に際しては、境内の雰囲気を活かした建物意匠とされ、所有者、文化財部局、景観部局との間に十分な協議がなされているものと思われる。引き続き、各事業実施に際しては、地下遺構に影響を及ぼすことがないよう、事前の十分な協議をお願いしたい。</p> <p>今後も、歴史を感じられる空間としての整備を進め、歴史的風致の維持向上に努めていただきたい。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>引き続き、「史跡宗像神社境内」整備基本計画を踏まえ、静謐かつ尊厳のある信仰の場に相応しい史跡景観を維持向上し、境内の歴史文化資源の価値を伝え将来に引き継ぐための事業を実施する。</p>			

市町村名	宗像市	評価対象年度	H30～R4
取り組み	B 歴史的風致等景観整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p><b>① 取り組み概要</b></p> <p>●宗像大社辺津宮周辺の無電柱化事業                      辺津宮に隣接する市道深田・縄手線下(170m)の無電柱化工事を実施した。また、同じく隣接する主要地方道宗像玄海線においても無電柱化に向けた取組を進めている。</p> <p>●景観阻害要因の撤去                      辺津宮の第1駐車場にあった祈願殿(1棟)を令和4年度に解体撤去した。撤去後は、参拝者の利便性向上のための休憩所や車祓いの駐車区画を整備予定である。整備にあたっては、意匠や色調について景観アドバイザーに意見を求め、世界遺産専門家会議で議論を行っている。</p> <p>●落石保護柵の修景整備                      鎮国寺周辺の落石保護柵の修景整備(56m)を実施した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>市道深田・縄手線無電柱化事業</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>宗像大社辺津宮祈願殿の撤去</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>			
<p><b>② 自己評価</b></p> <p>無電柱化事業や景観阻害要因の撤去、修景整備など、歴史的風致における良好な環境と調和した景観整備を進めることで、地域への愛着を深めるとともに、都市の魅力向上に繋がった。                      市道の無電柱化事業の実施にあたっては「官民連携無電柱化支援事業宗像大社地区協議会」を組織することで、円滑な事業の推進が図られた。                      各事業の実施に際しては、関係機関等と情報共有し、議論を重ねながら良好な景観の形成に向けた合意形成を図っている。</p>			
<b>外部有識者名</b>	福岡大学教授 柴田 久(宗像市景観アドバイザー)		
<b>外部評価実施日</b>	令和5年2月28日		
<p><b>③ 有識者コメント</b></p> <p>宗像市を代表する歴史的文化資産である宗像大社辺津宮周辺の無電柱化や所有者と連携した阻害要因の撤去の取り組みは、周辺環境と調和した良好な景観整備、景観形成誘導に繋がっている。世界遺産CITYとして、多くの来訪者を迎えるうえでも効果的なシティプロモーションといえる。またその取り組み自体も官民連携による事業推進を図った実施手法として評価すべきものといえる。                      今後も良好な景観整備・景観形成誘導が進められることで、宗像市の認知度はより向上するものと考えられる。交流人口の増加、ひいては定住化人口の増加につながっていくよう、本取り組みのさらなる充実と展開に期待したい。</p>			
<p><b>④ 今後の対応</b></p> <p>引き続き、宗像大社など歴史的風致を形成する建造物及びその周辺の景観整備について、関係機関等と協議・連携しつつ、良好な景観の形成に向けた合意形成を図る。また、魅力ある歴史的風致の構成要素である歴史的まちなみ景観の形成を促進することで、都市の魅力向上、地域活性化に繋げていく。</p>			

市町村名	宗像市	評価対象年度	H30～R4
取り組み	C 道路美装化事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p><b>① 取り組み概要</b></p> <p>●道路安全施設の設置・更新                      歴史的風致重点区域内において、カーブミラー（22基）、デリネータ（3基）、ガードレール（15箇所、総延長：737.5m）の更新を行った。また、辺津宮に隣接する用水路では、地域住民の要望を受け転落防止柵（2箇所、総延長：110.5m）を新設した。                      なお、施設の整備にあたっては、宗像市公共施設景観形成ガイドラインに沿って、事業の各段階で必要に応じて景観アドバイザーの助言、指導を受け、景観に配慮した色彩や形状に修景した。</p>			
		 <p>転落防止柵設置</p>	
		 <p>ガードレール更新</p>	
<p><b>② 自己評価</b></p> <p>景観に配慮した道路安全施設の設置・更新によって、歴史的風致と一体となった歴史的なまちなみの景観形成が促進され、観光拠点の道の駅「むなかた」から宗像大社や鎮国寺等を結ぶルート上の美装化は、歴史文化資源を活かした観光振興にもつながった。                      景観に配慮したカーブミラーやガードレールの更新は、市内全域に広まりつつあり、各地域の特性を活かした良好な景観の形成に寄与している。</p>			
外部有識者名	福岡大学教授 柴田 久(宗像市景観アドバイザー)		
外部評価実施日	令和5年2月28日		
<p><b>③ 有識者コメント</b></p> <p>景観形成における先導的役割を公共施設が担うべく、独自の「宗像市公共施設景観形成ガイドライン」を策定、運用していることをまずは評価したい。                      歴史的風致重点区域内の市道等において、予算的な制約がある中で、歴史的なまちなみの景観形成のための美装化は着実に進展している。また県との連携によって、県道においても同様の美装化が図られている点も評価すべき点である。                      一方で集落内の狭隘道路など、美装化の取り組みが進んでいない場所も依然としてあるため、既存施設の更新時等において関係部署、関係機関との連携等、さらなる取り組みの充実化を望む。</p>			
<p><b>④ 今後の対応</b></p> <p>引き続き、歴史的風致の区域における歴史的なまちなみ景観の形成を図るため、これまで実施してきた宗像大社（辺津宮、中津宮）、鎮国寺周辺などの修景と新たに神湊地区などの集落内道路の修景に取り組む。また、公共施設は良好な景観形成を先導する役割も担っており、市民に限らず市外からの来訪者も利用すること、あらゆる世代の人々が長期にわたって利用することから魅力ある歴史的なまちなみ景観の形成を図る。</p>			

市町村名	宗像市	評価対象年度	H30～R4
歴史的風致	1 宗像大社ゆかりの歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的建造物の保存・活用 II 歴史的建造物を取り巻く環境の保全・再生 III 歴史や伝統を反映した活動の支援・継承 IV 歴史文化資産の調査研究と普及啓発 V 歴史文化遺産を活かした地域活性化や観光振興		

① 歴史的風致の概要

宗像大社は沖ノ島の沖津宮、大島の中津宮、九州本土の辺津宮の三宮の総称で、全国で約6,400社ある宗像三女神を祀る神社の総本社であり、航海安全だけでなく、すべての道の守護神として全国的に広く信仰を集めている。みあれ祭をはじめ、古式祭、七夕祭など年間約40もの祭事が行われており、その繁栄を垣間見ることができる。

宗像大社の周辺には、今もなお宗像大社への篤い信仰や畏敬の念を身近に感じることのできる市街地環境と、そこに暮らす人々の息遣いが聞こえる活動とが一体となった歴史的風致が形成されている。

② 維持向上の経緯と成果

●保存・活用のための各種計画の策定

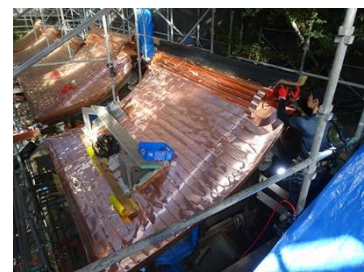
宗像大社を保存・活用するにあたり、「国指定史跡『宗像神社境内』保存活用計画」「宗像神社境内整備基本計画」「世界遺産のあるまちづくり計画」を策定することで、方向性の共通認識を図り、計画的かつ横断的に各種事業を実施することが可能となった。



世界遺産のあるまちづくり計画

●建造物の保存修理

沖津宮社殿や宗像大社辺津宮摂末社の劣化が進行したことから、宗像大社が主体となり歴史的建造物の保存修理を実施した。また、事業に際しては、国や福岡県、宗像市が費用の一部を支援した。これらの事業により、建物だけでなく、祭事等の信仰に伴う様々な活動を、これまで通り継続することが可能となった。



宗像大社辺津宮摂末社保存修理

●社叢整備

宗像大社辺津宮には、境内を取り囲むように広大な社叢が広がっており、令和元年度から計画的に社叢整備を実施し、神社境内らしい空間の維持・保全が図られた。



宗像大社辺津宮社叢整備

③ 自己評価

各種計画との連携により実施した歴史的建造物等の保存修理は、祭礼等の活動の継承につながった。また、社叢の整備は静謐で尊厳のある空間の形成に寄与し、これらの相互作用によって歴史的風致の維持向上を図ることができた。

④ 今後の対応

引き続き、関係機関等との連携による歴史的建造物等の保存活用や周辺環境の整備、人々の活動に対する支援を行い、価値や魅力の情報発信に取り組むことで、歴史的風致の維持向上を図る。

市町村名	宗像市	評価対象年度	H30～R4
歴史的風致	2 宗像の浦々にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保存・活用 II 歴史的建造物を取り巻く環境の保全・再生 III 歴史や伝統を反映した活動の支援・継承 IV 歴史文化資産の調査研究と普及啓発 V 歴史文化遺産を活かした地域活性化や観光振興		

① 歴史的風致の概要

宗像市の北側玄界灘沿岸部に位置する鐘崎地区と神湊地区、離島の大島、地島では現在も多くの人々が漁業を生業としている。  
 これらの海と共に暮らす人々の信仰や祭事には、海からの恵みに対する感謝と自然や万物に対する畏敬の念が込められ、日々の暮らしの中で豊漁と航海安全を祈り感謝を捧げる信仰や風習が今も息づいている。  
 沿岸部や離島の浦々では漁村集落のまちなみと信仰に関わる神社や祠と信仰による活動が一体となり、地域独自の歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

●調査研究の推進

市町村合併前の旧玄海町や旧大島村の沿岸部や離島は、文化財の総合調査が未実施の地域であった。宗像市では、合併後の市制10周年を契機に平成26年度から新修宗像市史の編さん事業を開始した。

事業では、浦々に継承される祭礼・行事・くらし等の調査が実施された。成果は、各執筆者によりまとめられ、これまで各5冊の市史本編と研究紀要が刊行され、浦々の暮らしの実態が明らかになった。



浦々における文化財の総合調査

●案内板設置

地島の厳島神社境内入口に説明看板を設置した。これにより、島を訪れた観光客だけではなく、住民も地域の歴史を知り理解することへの助けとなった。



大島地区の景観に配慮したカーブミラーの更新

●景観に配慮した道路安全施設の更新

沿岸部や離島の浦々では、漁村集落の中に、信仰に関する神社や祠と、その活動が一体となった歴史的風致が形成されている。神湊地区や大島地区において、カーブミラーなどの道路安全施設の更新の際には、景観に配慮した色や形状を採用することで、地域の特性を生かした良好な景観の形成が図られた。

③ 自己評価

調査研究によって、歴史文化資源の価値が再発見され、更なる魅力の向上につながった。また、案内板の設置は、来訪者の利便性を向上させ、景観に配慮した道路安全施設の更新は、沿岸部の歴史的風致を感じられる景観の形成に寄与している。

一方、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、恵比寿祭りや神社の祭礼等の地域の伝統行事の再開が鈍化しており、歴史的風致を維持向上する上での課題となっている。

④ 今後の対応

浦々における祭礼・行事・くらし等の調査を継続し、これらの成果を踏まえながら、沿岸部や離島といった地理的特性を活かした地域の活性化や観光振興に向けた取組みを横断的に実施する。

また、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、一度中断した恵比寿祭りや神社の祭礼等、地域の伝統行事等を再開・継承するため、関係団体にヒアリングするなどし、個々の実態に合った助言・指導や支援に力を注いでいきたい。

市町村名	宗像市	評価対象年度	H30～R4
歴史的風致	3 八所宮の御神幸祭にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的建造物の保存・活用 II 歴史的建造物を取り巻く環境の保全・再生 III 歴史や伝統を反映した活動の支援・継承 IV 歴史文化資産の調査研究と普及啓発 V 歴史文化遺産を活かした地域活性化や観光振興		

① 歴史的風致の概要

八所神社は、八所宮の名で親しまれ、市南東部の最も内陸である吉武地区に位置し、毎年10月に300年以上の伝統を誇る御神幸祭が行われている。

江戸時代には、赤間宿と木屋瀬宿とを結ぶ赤間街道が通り、現在も旧街道沿いには当時の面影を残すまちなみが広がっている。

八所宮とその周辺には、田園風景や農村集落が広がった良好な景観が形成され、御神幸祭の準備の段階から八所宮と人々が一体となって活動する姿があり、良好な歴史的風致が形成されている。

② 維持向上の経緯と成果

●土塀及び石垣の修復

八所宮の本殿と拝殿、土塀及び石垣、鳥居は「八所宮本殿と拝殿」として宗像市有形文化財（建造物）に指定されている。なかでも、境内にある白壁の土塀と石垣は、境内に独特の雰囲気を出し、八所宮のシンボルとも言える存在である。

土塀と石垣は経年劣化が著しいため、八所宮が主体となり、平成29年から令和2年度まで保存修復を実施した。事業に際しては、宗像市文化財補助金交付要綱に基づき、宗像市が費用の一部を支援した。



八所宮の土塀修復

●祭事の継承と後継者育成

祭事を継承する上で課題となる後継者不足や地域コミュニティの衰退などを解決するため、八所宮の「注連縄保存会」・「行列組」や地域の吉武地区コミュニティ運営協議会が連携し、後継者育成や祭事の継承に力を注ぎ、歴史的風致の維持を図った。



保存会による注連縄の製作

●文化財指定

八所神社の御神幸祭について、平成30年9月28日付けで吉武地区歴史・伝統文化保存振興会を保持団体として「八所宮神幸行事」の名称で宗像市無形民俗文化財に指定した。これにより、八所宮の伝統行事は、継承されるべき歴史的資産であるという価値の共有を図ることができた。



行列組による担い手の育成

③ 自己評価

地域の心のよりどころとなっている八所宮の歴史的建造物と祭礼行事の保存活用にハードとソフト事業の両面から取り組むことで、歴史的風致の維持向上を図ることができた。

経年劣化が進んでいる八所宮本殿の保存修理や祭礼の担い手減少といった課題もあるが、継続して八所宮と人々が一体となって活動する姿があり、良好な歴史的風致が形成されている。

④ 今後の対応

引き続き、歴史的風致の維持向上を図るため、ハード・ソフトの両面から各種事業に取り組むとともに、地域や関係機関と連携しながら劣化の進んだ歴史的建造物の保存活用や担い手不足等の課題解決に向けた事業を展開する。

また、歴史的風致の範囲内にある歴史的建造物等の歴史資源の保存活用や、地域の特性にあわせた歴史的まちなみ景観の形成を図る。

市町村名	宗像市	評価対象年度	H30～R4
歴史的風致	4 唐津街道赤間宿にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的建造物の保存・活用 II 歴史的建造物を取り巻く環境の保全・再生 III 歴史や伝統を反映した活動の支援・継承 IV 歴史文化資産の調査研究と普及啓発 V 歴史文化遺産を活かした地域活性化や観光振興		

① 歴史的風致の概要

江戸時代、唐津街道は豊前小倉（北九州市）から肥前唐津（佐賀県唐津市）を結ぶ北部九州の交通と物流の大動脈として整備され、市の東部に位置する赤間地区には唐津街道の宿場町として赤間宿が整備され、人や物資の集積地として大きく賑わった。

現在も赤間宿の唐津街道沿いには、ウナギの寝床と言われる街道に面する間口が狭く、奥に長い町屋の区画が残り、歴史を感じさせる建物が立ち並んでいる。

宿場町として栄えた歴史が基盤となり、江戸時代から続く酒造りなどの生業や、赤間祇園祭などの伝統行事が受け継がれ、歴史的に価値の高い建物と人々の活動が一体となった歴史的風致が形成されている。

② 維持向上の経緯と成果

●地域住民主体によるにぎわいづくり

赤間宿通り（旧唐津街道）に賑わいを取り戻そうと、平成27年6月から地域住民等からなる赤間宿通り活性化推進協議会を組織し活性化のための取り組みを行った。

赤間地区コミュニティ運営協議会と連携し、これまでに「赤間宿まつり」「九州大道芸まつり」「あじさい祭」など、赤間宿通りでのイベントを企画、実施し、歴史的風致の維持を図った。



赤間宿まつりでの賑わいづくり

●空き店舗の利活用

宗像市では、空き店舗や空き家の解消を図り赤間宿の賑わいを創出するため、平成28年10月に「宗像市赤間宿空き店舗新規利用支援事業補助金交付要綱」を創設した。事業に際しては、赤間宿通り活性化推進協議会と連携し、これまでに5件の空き店舗の改修、新規利用を支援することで、赤間宿の賑わいづくりに寄与した。



●建造物の保存

赤間宿街道沿いにある白壁に屋根瓦の姿をした家の連なりは、地域独自の市街地景観を形成している。街道沿いには、2件の国登録文化財（建造物）があるが、うち1件の「旧出光家住宅主屋」では、令和元年度に所有者によって外壁塗装などの修景が行われた。



街道沿いの空き店舗の利活用

③ 自己評価

地域が主体となり、各種イベントを企画・実施し、また、歴史的建造物の修景や、空き店舗を利活用することで、地域の賑わいが創出され、赤間宿の歴史的風致の維持向上を図ることができた。

④ 今後の対応

引き続き、赤間宿の歴史的建造物が立ち並ぶまちなみの保全に向けた各種事業に取り組む。

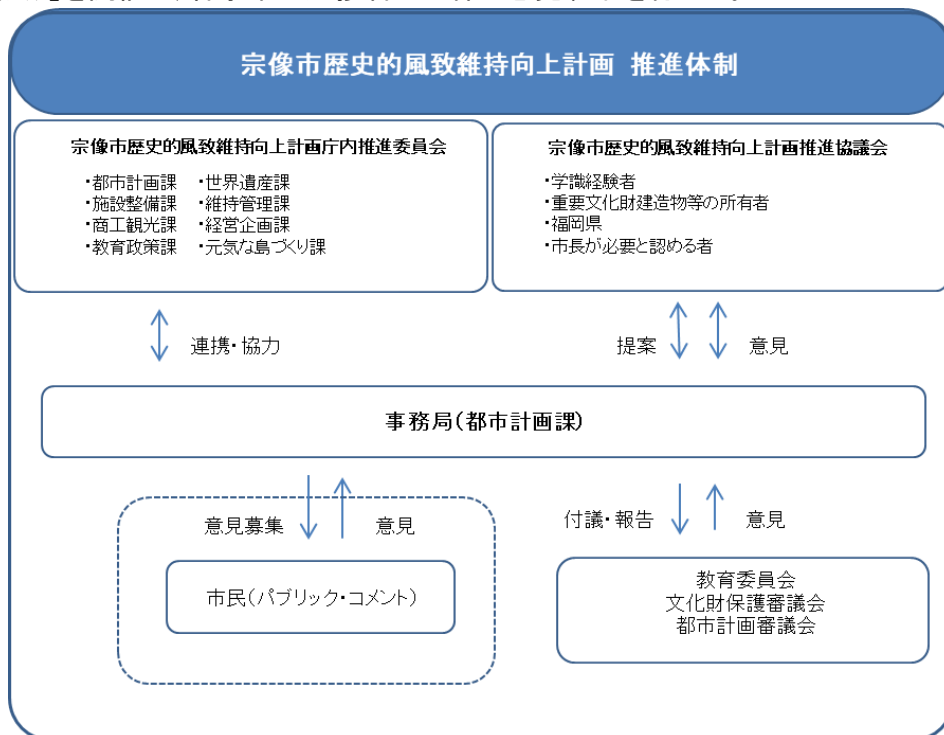
また、往時の面影を残す歴史的建造物2件が国有有形文化財に登録されているが、今後、集中的かつ良好に残された歴史的建造物をより一層保存活用するために、専門家等に意見を求め、地域の理解を得ながら、新たな文化財の登録を目指す。



市町村名	宗像市	評価対象年度	H30～R4
------	-----	--------	--------

① 庁内組織の体制・変化

庁内組織である「宗像市歴史的風致維持向上計画庁内推進委員会」を開催し、行政内部における計画の進行管理及び連絡調整を行った。また、「宗像市歴史的風致維持向上計画推進協議会（法定協議会）」を開催し、各事業の進捗管理に係る意見聴取を行った。



宗像市歴史的風致維持向上計画庁内推進委員会



宗像市歴史的風致維持向上計画推進協議会

② 庁内の意見・評価

●歴史的風致維持向上計画の推進にあたり、事業担当部署間において、密に連絡・調整を図り、連携を強化しながら、歴史まちづくりという視点を踏まえた取り組みを、より一層実施していく必要がある。

●事業を実施していく中で、情報発信を強化し、市民をはじめとする多くの関係者に、本市の歴史文化資産の魅力を発信するなどし、歴史まちづくりの価値を再度認識してもらう必要がある。また、地域が主体となって取り組みを推進する仕組みの構築も必要である。

●新型コロナウイルス感染拡大をきっかけとして、新しい生活様式などを踏まえ、今後も庁内推進委員会の連携を図りながら、歴史的風致維持向上に関する施策を推進していく必要がある。

●九州歴史まちづくり認定都市間の連携を強化し、更なる地域活性化を図るため、「九州歴史まちづくりサミット」を開催した。このことで、新たな気づき生まれ、改めて、歴史まちづくりの価値を再認識することができた。（令和5年1月開催：九州管内の14認定都市参加）

市町村名	宗像市	評価対象年度	H30～R4
------	-----	--------	--------

① 住民意見

■令和4年度市民アンケート調査より(令和5年1月実施、宗像市在住の18歳以上が対象)

① 「自然景観を貴重な財産だと思う、どちらかといえばそう思う」とする人は91%となり、「思わない、どちらかといえばそう思わない」とする人の3%と比べて高い割合を示している。

② 「宗像の歴史や歴史資産に誇りや愛着を感じる、どちらかといえば誇りや愛着を感じる」とする人は64%となり、「誇りや愛着を感じない、どちらかといえば誇りや愛着を感じない」とする人の10%と比べて高い割合を示している。

このことから、多くの市民は宗像の歴史資産や自然景観を通じて、郷土に対する愛着や誇りなどの意識醸成に効果が出ている。

③・④ 観光による地域の活性化及び教育環境の充実に関する満足度に関しては、「普通」とする割合が最も高く、「高い、やや高い」とする割合が、「低い、やや低い」とする割合をわずかに上回っていることから、取組の効果はあるものの、十分とまではいえない。

■令和4年度学習意識調査より(令和4年12月実施、全市立小中学生対象)

⑤ 全市立小中学生に対して実施した学習意識調査によると、「自分の住んでいる地域がとても好き」とする人は70%となり、「ぜんぜん」とする人の2%に比べ高い割合を示しており、多くの子ども達はふるさとに対して愛着を感じており、取組の効果が出ている。

■文化財保存活用地域計画作成に係る市民アンケートより(令和2年2月実施)

・今は時間や気持ちに余裕がないが、仕事の定年後、何か出来ることがあれば携わりたいと思う。

■文化財保存活用地域計画作成に係るパブリックコメントより(令和3年3月1日～3月30日実施)

・宿場町の歴史的建造物を残すのであれば、所有者への財政支援や助言を行ってほしい。また、赤間の旧唐津街道沿いは交通量が多く、危険なため、来訪者の安全を確保する事業に取り組んでほしい。

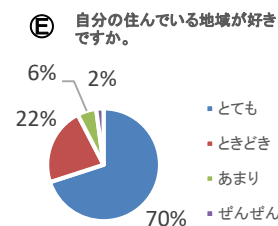
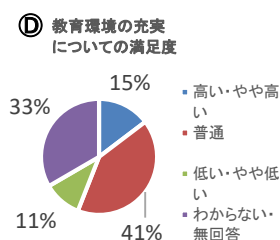
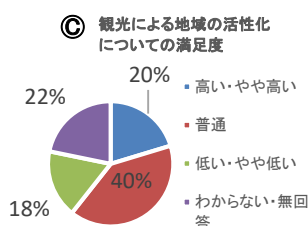
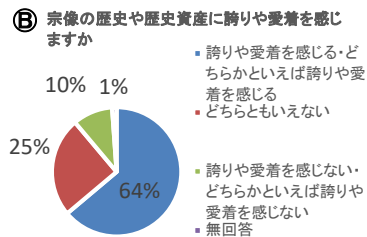
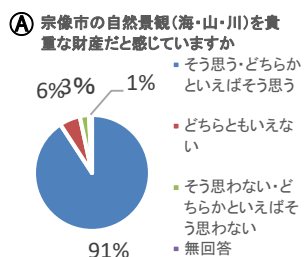
■文化財保存活用地域計画作成に係る聞き取り調査より(令和2年3月実施)

・解説ボランティアのひとりひとりのスキルに差があり、十分なおもてなしができていない。来館者に満足していただくためにも研修会等を通じ、スキルアップにつなげたい。(海の道むなかた館地域学芸員)

・歴史や文化の魅力を伝えるため、館外での活動も積極的に取り組みたい。(海の道むなかた館地域学芸員)

・地域には、歴史文化資産の保存と活用に取り組む団体が数多く存在する。貴重な歴史文化資産の継承のためにも、各団体の活動を支援する仕組みを構築してほしい。(コミュニティ運営協議会事務局長)

・歴史文化資産の価値を明らかにするためにも調査研究に協力したい。(指定文化財所有者)



② 協議会におけるコメント

・「I 歴史的建造物の保存・活用」について、所有者等が維持・活用するために手を加え、経済的負担を重ねてきた努力が正当に評価されなければ、やむなく取り壊しを選択せざるを得ないことなどから、経年により「歴史的建造物の税負担は低下し、市場価値は増す」という「付加価値」の方向へ誘導する必要があると考える。

・指定文化財において達成された貴重な成果と経験を、歴史的風致の構成要素全体に広げる仕組みを構築する必要があると考える。

・唐津街道赤間宿に公共交通機関を利用して訪れる方々に対する誘導など利便性を向上させる取り組みを実施する必要があると考える。

市町村名	宗像市	評価対象年度	H30～R4
<p><b>① 全体の課題</b></p> <p>(1)歴史的建造物の保存・活用に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●歴史的建造物の保存・活用に対する支援は、指定文化財の保存修理や空き店舗の利活用などに限定されており、一部の歴史的建造物の保存・活用に留まっている。</li> <li>●市史編さん事業や文化財保存活用地域計画の作成過程において、専門家や市民の協力を得て文化財の総合調査が実施され、相対的に市内の歴史的建造物の価値が明らかになってきているものの、法令等による指定・登録件数は増加していない。</li> </ul> <p>(2)歴史的建造物を取り巻く環境の保全・再生に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●景観形成一般区域における周辺環境と調和しない屋外広告物、集落内道路における老朽した道路付属施設など景観阻害要因は、引き続き存在していることから、その対応が必要である。</li> <li>●街道沿いなどでは空き店舗の利活用を図っているものの、歴史的建造物が解体され、空き地や駐車場など空地が目立っており、優れた眺望景観やまちなみ全体としての連続性が失われつつある。</li> </ul> <p>(3)歴史や伝統を反映した活動の支援・継承に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●歴史や伝統を反映した活動の継承支援を実施しているものの、その支援は一部団体に限定されている状況である。</li> <li>●後継者育成を求めている団体とコミュニケーションを図り、団体個々の継承に対する課題を整理する必要がある。</li> </ul> <p>(4)歴史文化資産の調査研究と普及啓発に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●歴史文化資産の調査研究を進めているが、これまで未把握であった歴史文化資産が新たに発見されており、継続的に調査を実施する必要がある。</li> <li>●調査研究の成果を、普及啓発等に更に活かすため、情報発信の手法などについて検討する必要がある。</li> </ul> <p>(5)歴史文化資産を活かした地域活性化や観光振興に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●市内の回遊性を向上させるための取り組みや、各拠点の賑わいを創出するための取り組みは実施しているものの、「面」としてのネットワーク化した観光周遊ルートの形成には至っていない。</li> <li>●新型コロナウイルス感染症拡大の影響などによって来訪者数は最盛期の水準に戻っていない。</li> </ul>			
<p><b>② 今後の対応</b></p> <p>(1)歴史的建造物の保存・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●歴史的風致形成建造物の指定候補のあり方を検討するなどし、未指定の歴史的建造物の保存・活用に係る支援の拡充を図る。</li> <li>●保存活用が進んでいない未指定の歴史的建造物の価値を明らかにし、必要に応じ指定や登録等による保存措置を図る。</li> </ul> <p>(2)歴史的建造物を取り巻く環境の保全・再生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●周辺地域との一体的な景観形成に向け、引き続き景観条例や屋外広告物条例に基づき規制・誘導を行うとともに、外観修景に対する支援等の促進策について検討する。</li> <li>●関連する施策と連携を図りながら、建造物等の外観修景や除却、集約化、道路の美装化等を実施する。</li> </ul> <p>(3)歴史や伝統を反映した活動の支援・継承</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●活動を継承することの必要性や継承に対する支援制度を周知するとともに、学校教育の場や継承に取り組む活動団体と連携しながら後継者の育成に努める。</li> <li>●継承が困難になりつつある活動団体と課題を共有し、課題解決に向けて、実態を踏まえたきめ細やかな助言・指導や支援を実施する。</li> </ul> <p>(4)歴史文化資産の調査研究と普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●新たに作成した「文化財保存活用地域計画」と連携しながら各種取組を計画的・継続的に実施することにより、調査研究や普及啓発の推進を図る。</li> <li>●調査研究の成果を、市民向け講座の実施やSNS等を活用し、わかりやすい情報発信を強化することで、歴史文化資産の普及啓発に活かしていく。</li> </ul> <p>(5)歴史文化資産を活かした地域活性化や観光振興</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●文化財の所有者や関係団体との連携を図り、テーマやストーリーで歴史文化資産をつなぐ等の更なる価値付けや魅力づくりを通じて、ネットワーク化した「観光周遊ルート」の形成を強化する。</li> <li>●本市を訪れるきっかけとなるような、魅力的で理解しやすい情報発信を行う。</li> <li>●新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により変化した生活様式を踏まえ、地域活性化や観光振興に係るIT活用等の方策を検討する。</li> </ul>			